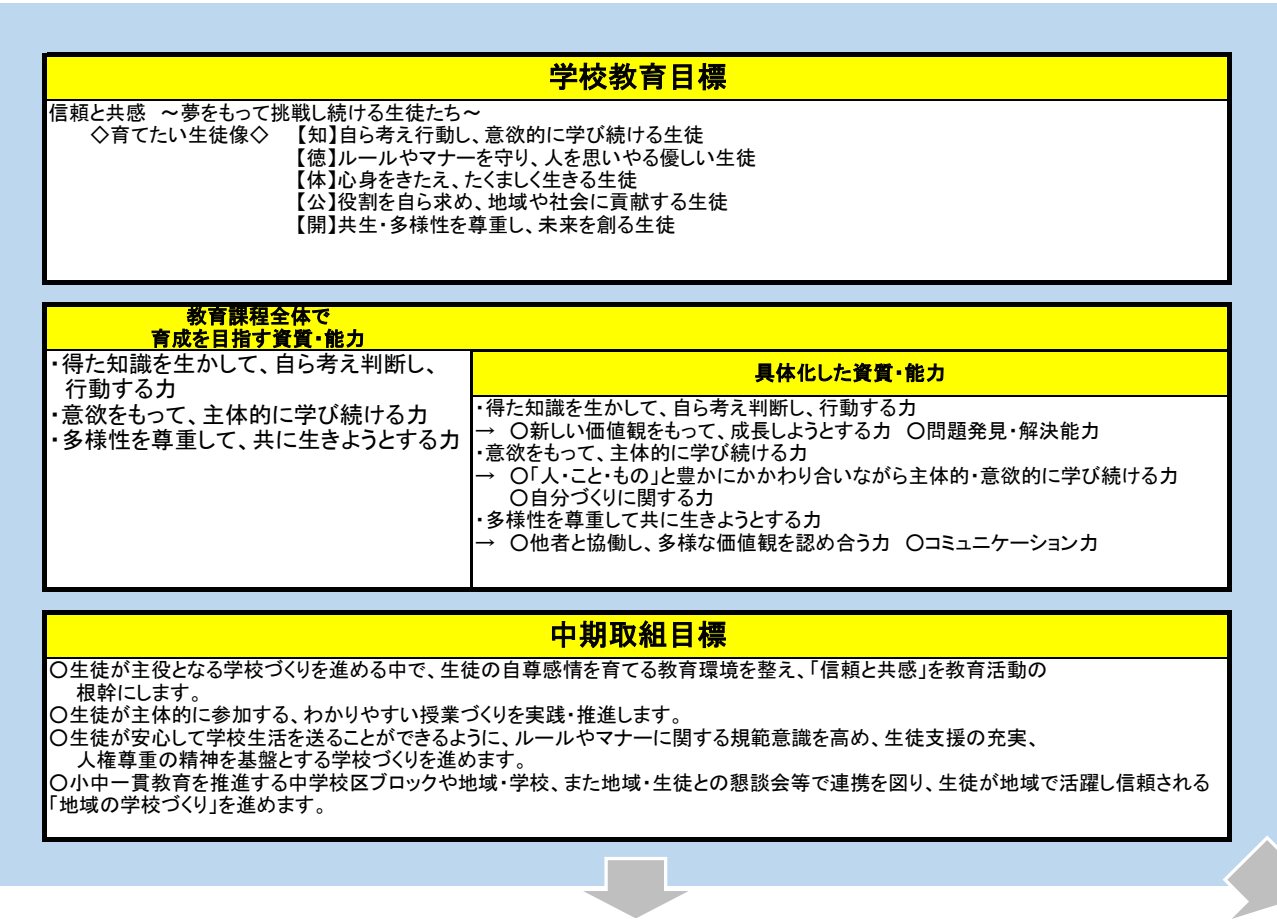




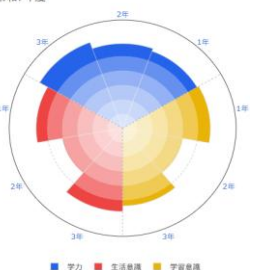
学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①授業では目標や評価規準、学習課題を生徒にわかりやすく提示するとともに、確実に力が身に付くように授業展開を工夫する。②「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、生徒の実態や意見、学力・学習状況調査のデータ結果を生かしながら、授業改善に努める。③教育DXの研究を進め、GIGA端末やAI型教材等の活用による教育効果を高めていく。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力の概要と要因の分析
本校生徒の学力に関しては近年の市学力・学習状況調査の結果からみても、市の平均よりかなり上回っているといえる。これは保護者の教育への関心が高いことから、普段の生活習慣でも学習への取組が定着していることが大きいと思われる。「今の課題を明確にし、その改善に取り組む」という姿勢が当たり前のこととして身に付き、学習に対してもおろそかにせずに取り組むことが学力の維持につながっていると思われる。

(2)学習意識・生活意識集計による分析
学習意識についても、生徒は意欲的に授業に取り組もうとしている姿勢がみられる。授業でもICTの活用など様々な工夫がされ、意欲的に学習に取り組んでいる。しかしこれからも、目の前の学習だけでなく、学んだことを日常生活で生かし、「生きて はたらく知」として身に付けさせる授業の工夫をしていく必要がある。

≪全体と各学年の結果≫


今年度の目標

生徒の実態や意見、学力学習状況調査のデータ結果を生かし、学習課題をわかりやすく提示し、確実に力が身につくように授業展開を工夫する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

・国語では根拠をもとに互いの意見を伝え合う表現力の育成を目指し、自分の考えや根拠を元に構成し、他者との対話の中で自身の考えをより深める場面を設定する。
・社会では主体的に社会参画する姿勢の育成を目指し、地域の課題に対し、学習した内容と関連付けて考え、よりよい解決に向けて他者と協働する学習を展開する。
・数学では課題に対応する力の育成を目指し、他者と関わって日常の事象を数理的に考察したり論理的に説明したりする数学的活動を積極的に展開する。
・理科ではメタ認知する力の育成を目指し、実験の計画や事象の説明をする活動を取り入れ、仮説の議論や結果の共有、考察等において協働的に学び学習を振り返る場面を設定する。
・音楽では伝え合うことで集団の考えを発展させる力の育成を目指し、様々な相手との対話を手掛かりにして子供一人ひとりが考える場と意見交換する場を意図的に設定し、よりよい表現を目指すことのできる学習展開をする。
・美術では自分らしさを発揮しようとする姿勢を目指し、生徒自身が表したいことを主題にしたり、根拠をもってよさや美しさを考えたりすることを重視した学習を展開する。
・保健体育では課題解決能力の育成を目指し、生徒が学習の見通しをもち、自らの課題を発見し、課題解決を図る取組を通して、運動の楽しさ、達成感を味わえる授業を展開する。

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①道徳年間計画に基づき、各学年で特別な教科・道徳の授業を進め、別業を活用して教育活動全体で生徒の豊かな心を育む。②子ども会議のテーマを基に人権について話し合い、生徒の意見を取り入れることで、いじめの未然防止の取組につなげる。③「PayForward」の考えを柱としながら、一人ひとりの個性を認め合い、自分の思いを安心して表現できる学校づくりを行う。
担当	学習指導部道徳

豊かな心に関わる本校の状況

kj

今年度の目標

一人ひとりの個性を認め合い、自分の思いを表現できるよう、生徒の意見を取り入れた取組を行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

「特別の教科 道徳」において、学級担任のみならずチームによる道徳の教科指導を実施する中で、指導内容と評価の充実を図る。
・採択された教科書の教材を中心とし、生徒の発達段階や特性を考慮しながら適切な教材及び資料の開発や活用を積極的に推進する。
・「特別の教科 道徳」の指導の中で、議論する場面やロールプレイをより多く設定し、様々な価値観を認めることを基本とした指導を心がける。また、道徳ノートとファイルを、年間を通して使用し、道徳の授業の評価資料として生かす。

下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①身体計測・新体力テストの実践を通して自分の体や体力について知り、自らの健康の保持増進や体力の向上につなげる。 ②心身の健康の保持増進のために教育活動全体を通じて学習できるよう教科や特別活動との連携を図る。
担当	保健指導部

健やかな体に関わる本校の状況

健康に関する実態
①生活習慣
・朝食の摂食率は高く、朝食が各家庭で用意されている。
・睡眠時間は、通塾や習い事のため少ない傾向にある。
②保健室来室状況
・内科的理由は偏頭痛や低気圧による頭痛で来室する生徒が多い。
・けがは転倒やボールの打撲による骨折が多い。
③心の健康
・対人関係にストレスを抱える生徒が多い傾向にある。
新体力テストからの考察
①新体力テストの結果から「脚力」(走る力)が横浜市平均と比較すると、格段に劣っていることが判明した。走る力は忍耐力にもつながり、今後、心の健康につながる指導へとつなげたい。

今年度の目標

心身の健康の保持増進のために意識を高め主体的に健康な生活を実践する態度を育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

・新体力テストの結果から、自分の体や体力について知り、健康の保持増進について考え、体力の向上につなげる。
・体育祭を通して、リーダーシップや仲間との協力、心身ともに向上心を養う。
・健康診断結果を保護者と共有し、健やかな体の育成に向けて、必要時には個別に健康相談を実施する。
・生徒自ら毎日の健康観察を行い、心身の健やかな育成について取り組むよう促す。

下半期